

## 2019年度 高2レベル記述模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A  
a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B  
a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C  
次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
  - c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
  - d 答案の文章が最後まで完結していないもの。
- 4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

# 高2レベル記述模試 採点基準

## □ 現代文 評論 (50点)

### 問1 (各2点)

- 1 実践    2 警鐘    3 予見    4 洪水    5 企図

### 問2 (10点)

【模範解答例】人々が、自分の用いようとしている言葉を吟味して選ぶことなく、他人が繰り返している常套句を無自覚に反復していること。

【別解】人々が、他人が繰り返している常套句をさらに繰り返すだけで、自分が用いようとしている言葉に思いを凝らそうとしないこと。

#### 【採点のポイント】

- A 「人々が」が主語になっていること (2点)  
○ 「多くの人が」

- B 「自分が用いようとしている言葉を吟味して選ぶことなく」 (3点)  
○ 「自分が用いようとしている言葉に思いを凝らそうとしない」  
○ 「自分が用いようとする言葉に思いを凝らし、吟味して選び取らなことをせず」  
○ 「自分の話す言葉に耳を傾けることなく」  
○ 「自分の言葉に思いを凝らすことなく」

- C 「他人が繰り返している常套句を反復していること」 (3点)  
○ 「他人が繰り返す常套句を繰り返していること」

- D 「無自覚に」 (2点)  
○ 「無意識的に」  
○ 「自分でも気づかぬうちに」

※ 「自分のものだと思って語っている言葉が、多くの場合、実は他人の繰り返している常套句のさらなる反復に過ぎないということ。」「といった内容の解答は (A+C+D) で、7点とする。

※ 文末が句点 (。 ) で結ばれていない解答、あるいはピリオド ( . ) で結ばれている解答はマイナス1点。  
※ 誤字脱字はそれぞれマイナス1点。

問3 (8点)

【模範解答例】「民族の自由と独立」や「国民の名誉」を守る闘争に勝利するという目的。

【採点のポイント】

A 「民族の自由と独立」や「国民の名誉」を守る闘争に」(6点)

△かぎ括弧無しは4点。

△「ヒトラー自身の考える闘争に」は2点。

△「民族の自由と独立」を守る闘争に」は3点。

△「国民の名誉」を守る闘争に」は3点。

B 「闘争に勝利するという目的。」(2点)

×「ユダヤ人を「劣等人種」や「害虫」といった言葉に置き換えるという目的。」は0点。

×「ユダヤ人を殲滅すべき対象として扱うという目的。」も0点。

△「〽闘争に動員するという目的。」は1点。

※「彼の考える闘争に勝利するという目的。」は2点。(説明不足、字数不足)

※文末が句点(「。’)で結ばれていない解答、あるいはピリオド(「.’)で結ばれている解答はマイナス1点。

※誤字脱字はそれぞれマイナス1点。

問4 (10点)

【模範解答例】現実を曖昧な言い回しで覆い隠して人々の感受性や想像力を麻痺させるだけでなく、現実を

改変しようという意図さえ持っている点。

【採点のポイント】

A 「現実を曖昧な言い回しで覆い隠して」(3点)

○「主に婉曲法と論点回避と、朦朧たる曖昧性から成り立たざるをえない」

○「論点をぼやかす曖昧で婉曲な言い回し」

○「物事を名指しつつ、それに対応するイメージを喚起させない」

○「苛烈な現実をオブラートに包んで曇らせ」

B 「人々の感受性や想像力を麻痺させる」(2点)

△「人々の感受性を麻痺させる」(1点)

△「人々の想像力を麻痺させる」(1点)

C 「現実を改変しようという意図さえ持っている点。」(3点)

○「現実の方を改変しようという意図が働いている点。」

- 「現実そのものを歪めようとする点。」
- 「現実を歪めて常套句に合わせてしまう点。」
- 文末が「ゝ点。」ではなく「ゝこと。」は減点なし。
- △ 「嘘を本当と思わせる点。」(2点)
- △ 「空虚なものを実質の備わったものに見せようという意図を持っている点。」(2点)
- △ 「殺人を立派なものに見せかける点。」(1点)

※文末が句点(「。’)で結ばれていない解答、あるいはピリオド(「.’’)で結ばれている解答はマイナス1点。

※誤字脱字はそれぞれマイナス1点。

問5 ホ (3点)

問6 イ (3点)

問7 ニ (6点)

二

問一 1 ゆが 2 そむ 3 ゆだ 4 おもわく [2点×4]

問二 有限な人間の社会には裏切り、失敗、挫折などのさまざまな困難があり、生きるためには、それを乗り越えなければならぬから。(59字) [10点]

問三 能動性 [5点]

問四 ニ [5点]

問五 X—ハ Y—イ [5点×2]

問六 相手が、自分をひととして認めてくれ、受け入れてくれて、存在を肯定してくれていること。(42字) [7点]

問七 イ [5点]

【計50点】

問二 有限な人間の社会には裏切り、失敗、挫折などのさまざまな困難があり、生きるためには、それを乗り越えなければならぬから。(59字) [10点]

A 有限な人間の社会には(1点)

▼「有限な人間」「有限な社会」、どちらの意でとつても認める。

B 裏切り、失敗、挫折などの … 「荒波」の比喩(3点)

▼1点×3とする。

C ささまざまな困難があり … 「荒波」の比喩(2点)

▼類義語として「困苦」「苦難」も可。「さまざまな」は無くても可。

D 生きるためには、(1点)

▼「有限なわれわれが生きる」「生き抜くには」なども可。

E それを乗り越えなければならぬ … 「冒険」の比喩(3点)

▼他には「克服しなければならぬ」なども可。B・Cが無い場合は無得点。

問六 相手が、自分をひととして認めてくれ、受け入れてくれて、存在を肯定してくれていること。(42字)  
〔7点〕

A 相手が (1点)

▼「他者」も可。「相手」「他者」という主体が間違っていたり、明確でないものはBCDにも得点を与えず、トータルで0点とする。逆にBCDが無くて得点は与える。

B 自分をひととして認めてくれ (2点)

▼「自分を」が無い場合は1点。Aが無ければ得点与えず。

C 受け入れてくれて (2点)

▼「待たれている」は同義ということでも可とする。Cと「待たれている」の二つを書いた場合はトータルで2点。Bの「自分を」の要素が含まれていない場合は1点。Aが無ければ得点与えず。

D 存在を肯定してくれている (2点)

▼Aが無ければ得点与えず。

※ 制限字数の半分以上書かなかった場合は無得点とする。

※ 「から。」や「こと。」のように、設問要求に正確に答えていない場合、文末不備として1点減点。

※ 句点を付けていないものも1点減点。

※ 誤字は1点減。

高二

問一

■ 現代語訳問題

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備

・ 文末表現・句読点は不問

**基準** 配点…各3点

①

■ 模範解答

a

b

目を合わせる な

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 要素a **目を合わせる…1点**

・ 「視線を合わせる」、「目を見合わせる」、「顔を合わせる」、「顔を見る」なども可

■ 要素b **くな…2点**

・ 「くしてはいけない」など、禁止の意であることがわかれば可

■ その他…**真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問**



②

■模範解答

a

b

c

我ながら 本当に 理解できない

■採点方法…各要素単独採点

■要素a 我ながら…1点

・「自分自身」、「自分でも」、「私自身」自分のことではあるが「身をもって」  
なども可

■要素b 本当に…1点

・「なるほど」、「よく」、「実に」など「理解できない」ことを強調する副詞であれば可

■要素c 理解できない…1点

・「わからない」、「納得がいかない」なども可

自分で自分の行動に正当な説明がつかないということ。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

③

■模範解答

a b c

どうして「一緒に いられないだろうか」

■採点方法：各要素単独採点

■要素a どうして：1点

- ・反語「どうして〜（いられないだろう）か」または「〜（いられるだろう）」
- ・「どうして〜のだろうか」など疑問の解釈は**加点無し**。

■要素b 一緒に：1点

- ・「ともに」「そばに」なども可。
- ・「同じ場所に・一か所に」は物理的な場所に主眼があり、「同じ場所・一か所にいられない」では移動してしま  
うようなニュアンスになるので不可。二人がともにいる精神的なつながりに主眼がないので文脈にそぐわな  
い。**加点無し**。

■要素c いられないだろうか：1点

- ・「いる」+打消+推量 完答

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

## 問二

- 敬意の方向と種類の問題
- 形式上の不備 「○○から○○への敬意を示す○○語」ではない不備は0点
- 解答

- a 武蔵坊から判官への敬意を示す丁寧語
- b 判官から静御前への敬意を示す尊敬語
- c 作者から判官への敬意を示す謙讓語

- 採点基準 配点：2点

完答

判官↓義経 静御前↓静 武蔵坊↓弁慶 でも可

## 問三

- 心情説明の問題

- 解答 配点：6点

口

## 問四

- 内容説明の問題

- 字数制限無し

- 形式上の不備

- ・ 文末表現「く(という)こと」など。不備1点減点
- ・ 句読点は無問

- 基準 配点：7点

- 模範解答

a b c d e f

静御前を 都へ帰そうという 判官の 判断は、とてもよい判断だ ということ。

- 採点方法：各要素単独採点

- 要素 a 静御前を：1点

- ・ 動作の対象が静御前であることがわかれば可。

- 要素 b 都へ帰す：1点

- ・ 「連れて行くのをあきらめる」でも可とする。

- 要素 c：判官の：1点

- ・ 「義経の」「判官が」「義経が」でも可。

- 要素 d：判断：1点

- ・ 「決めたこと」・「判断したこと」・「決意したこと」・単に「くこと」なども可。

■要素 e…とてもよい判断だ…2点

- ・武蔵坊が賛成していることがわかれば可。

■要素 f…ということ…1点

- ・文末表現「〜(という)こと」

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

## 問五

■内容説明の問題

■字数制限 四〇字以内 以上のものは0点 以下のものはすべて採点対象とする。

■形式上の不備 文末表現・句読点は不問

基準 配点…8点

■模範解答

a 敵に捕らわれてひどい目に遭うよりは、  
b 義経の手にかかって  
c 死にたいということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素 a 敵に捕らわれてひどい目に遭うよりは…4点

- ・(生きて) 敵のためにひどい目に遭うよりは …○4点
- ・(生きて) 都に帰るよりは …△2点 危害が加えられていないので2点減点
- ・(生きて) 離れ離れになるよりは …△2点 危害が加えられていないので2点減点
- ・敵に殺されるよりは …△3点 殺されるとまでは明言されていないので1点減点

■要素 b 義経の手にかかって…1点

- ・義経によって ということがわかれば可

■要素 c 死にたいということ…3点

- ・殺してほしいと言っていることがわかれば可。

■その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

## 問六

■和歌の説明の問題

■解答 配点…6点

イ

問七

■ 内容合致問題

■ 解答 配点：8点

ホ

問一

- a ただす 2点
- b ゆえんを 2点
- c ここをもって 2点
- d ひそかに 2点

※ひらがなでないものは×

※現代かなづかいでないものは×

※「ゆえん」だけで「を」がないものは×

※「これをもって」は×

問二

a 2点

怠け者の農夫の仕事は、

b 4点

耕し方に深い浅いのむらがある

c 不問

から。(6点)

a 「惰農の為」の要素 2点

※ここで主体を間違えているものは全体× 0点

※「為(しわざ)」|| 「仕事」の有無は不問

b 「力を用ふることに専らならず」の要素 2点

「耕すに深浅あり」の要素 2点

c 文末の「くから」「くので」「くため」の有無は不問。

問三

I Ⅱ 浅 2点

II Ⅱ 晚 2点

III Ⅱ 深 2点

IV Ⅱ 晚 2点

※これ以外は×

問四

所<sub>下</sub>一以耕有<sub>二</sub>深浅<sub>一</sub>而熟有<sub>中</sub>早晚<sub>上</sub>也矣。 6点

※完答のみ○

※送り仮名のついているものは×

問五 i

a 4点 b 2点

a

豈に 老農の言に愧づること 無からんや。

問五 ii どうして老農夫の言葉に恥じ入らずにいられようか 6点

※「どうして〜のか？」のように疑問形の訳は×

問六

a 5点

名声が早く世に顕れることを焦らず、

b 5点

仏道の修行に深く打ち込んでいる

c 不問

人物。(10点)

a 「今の吾が徒」の「名の晚きを患ふる」の逆の要素 5点

b 「深く耕す者」の要素 5点

c 文末の「人物」の有無は不問とする